

「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート集計結果

調査時期：平成23年2月

対象者：県政モニター 194人

回答数：140人（回収率72.2%）

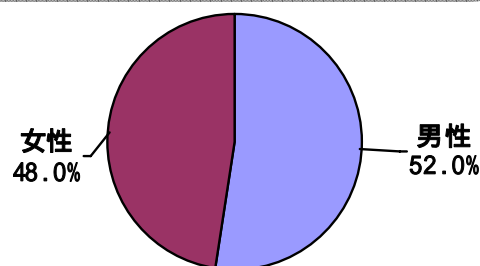
担当課：土木交通部 流域治水政策室

調査目的： 県では、洪水に対して人命を守ることを第一に、いかなる洪水に対しても壊滅的な被害を防ぎ、そして被害をできるだけ少なくするため、これまでの川の中の対策だけでなく、川の外での対策を県民のみなさんと協働して実施していく「流域治水対策」を検討しているところです。

県民のみなさんの豪雨災害に関する意識等について把握し、今後の施策検討の参考とするためアンケート調査を実施しました。

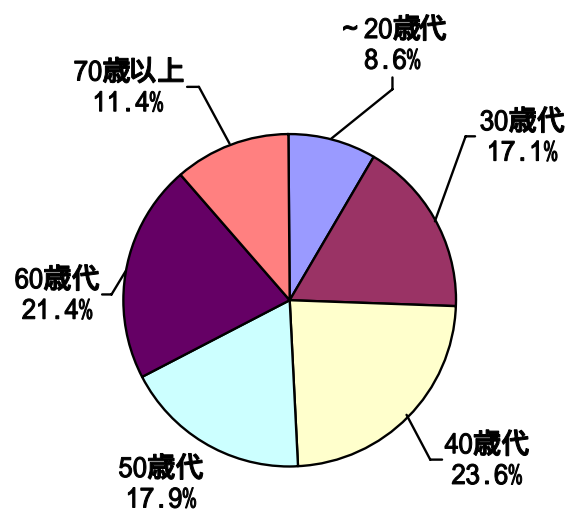
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	73	52.0
女性	67	48.0
合計	140	100



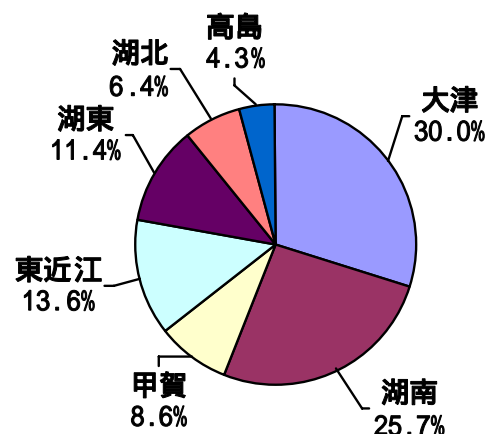
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
～20歳代	12	8.6
30歳代	24	17.1
40歳代	33	23.6
50歳代	25	17.9
60歳代	30	21.4
70歳以上	16	11.4
合計	140	100



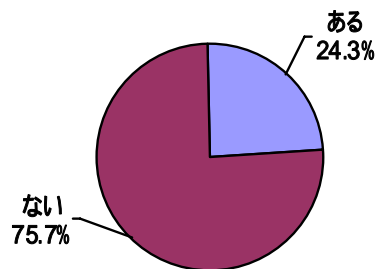
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	42	30.0
湖南地域	36	25.7
甲賀地域	12	8.6
東近江地域	19	13.6
湖東地域	16	11.4
湖北地域	9	6.4
高島地域	6	4.3
合計	140	100



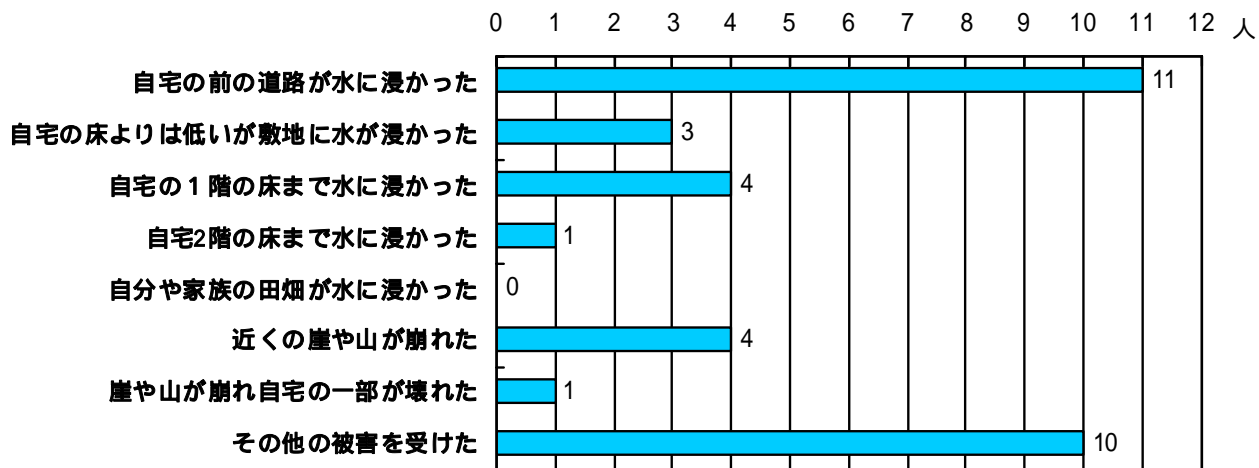
問4 あなたは過去に豪雨（台風を含む）によって被害を受けたり、危険を感じたりしたことはありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
ある	34	24.3
ない	106	75.7
合計	140	100



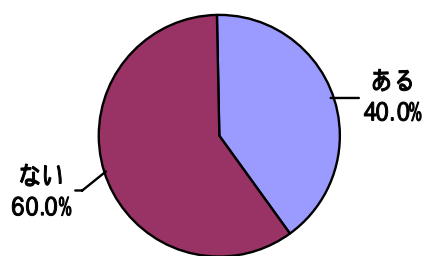
問5 問4で「ある」と回答された方にお聞きします。
その時の状況はどのようなものでしたか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅の前の道路が水に浸かった	11	32.4
2. 自宅の床よりは低い敷地に水が浸かった	3	8.8
3. 自宅の1階の床まで水に浸かった	4	11.8
4. 自宅2階の床まで水に浸かった	1	2.9
5. 自分や家族の田畑が水に浸かった	0	0.0
6. 近くの崖や山が崩れた	4	11.8
7. 崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた	1	2.9
8. その他の被害を受けた	10	29.4



問6 あなたは今住んでおられる地域で起きた過去の自然災害(被害)の話を、人から聞かれたことはありますか。

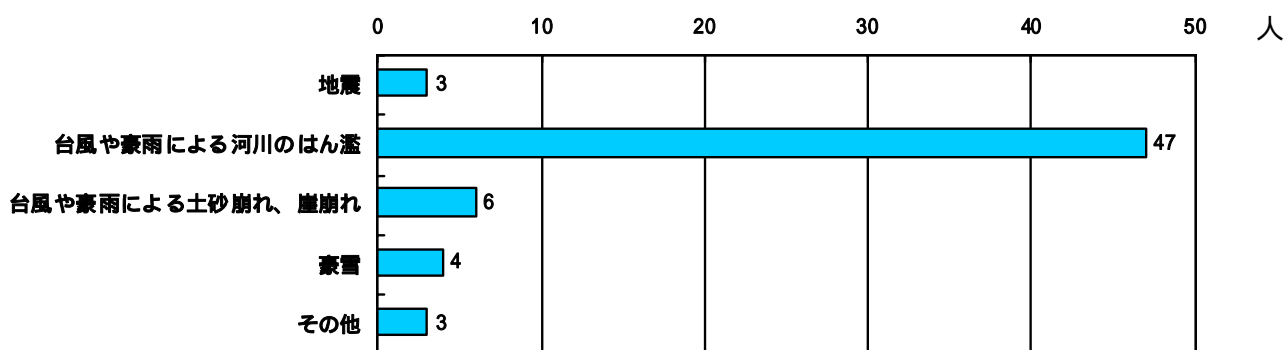
項目	人数(人)	割合(%)
ある	56	40.0
ない	84	60.0
合計	140	100



問7 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。

それはどのような自然災害でしたか。(はいくつでも)

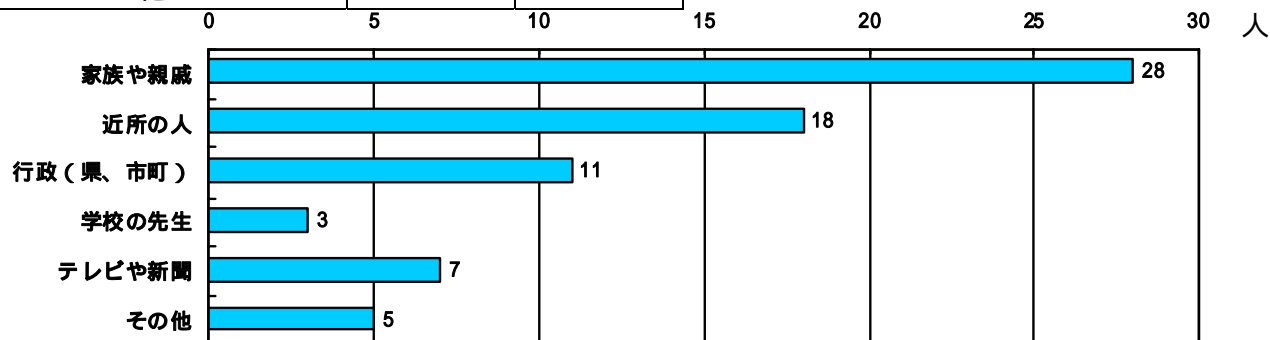
項目	人数(人)	割合(%)
1.地震	3	5.4
2.台風や豪雨による河川のはん濫	47	83.9
3.台風や豪雨による土砂崩れ、崖崩れ	6	10.7
4.豪雪	4	7.1
5.その他	3	5.4



問8 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。

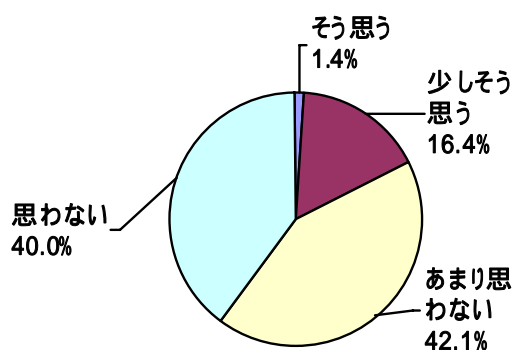
それは誰から聞かれた話ですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1.家族や親戚	28	50.0
2.近所の人	18	32.1
3.行政(県、市町)	11	19.6
4.学校の先生	3	5.4
5.テレビや新聞	7	12.5
6.その他	5	8.9



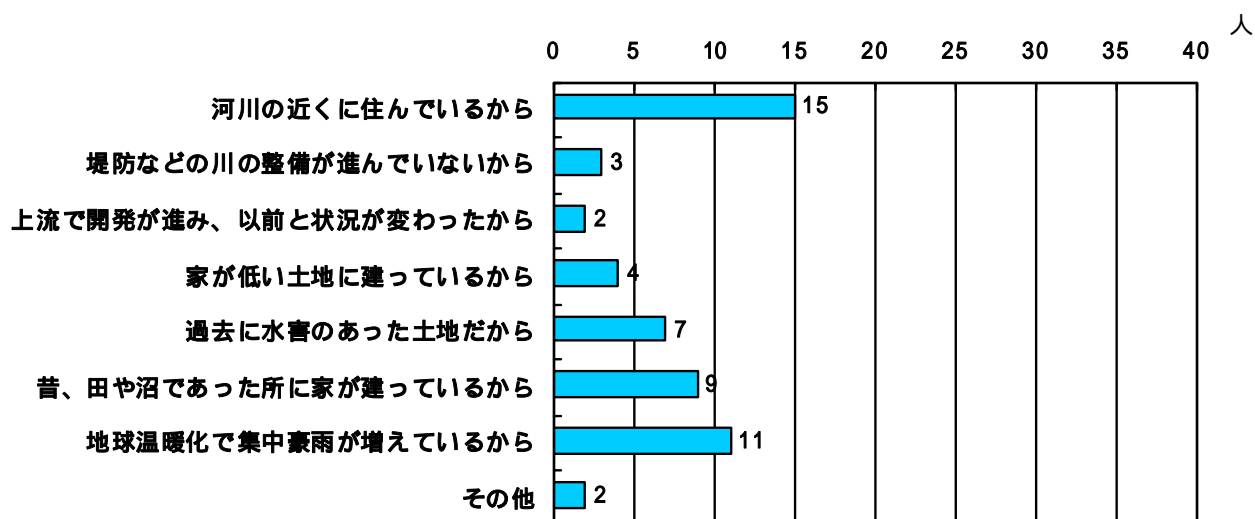
問9 あなたは、今お住まいの家が今後10年以内に洪水による被害を受けると考えられますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. そう思う	2	1.4
2. 少しそう思う	23	16.4
3. あまり思わない	59	42.1
4. 思わない	56	40.0
合計	140	100



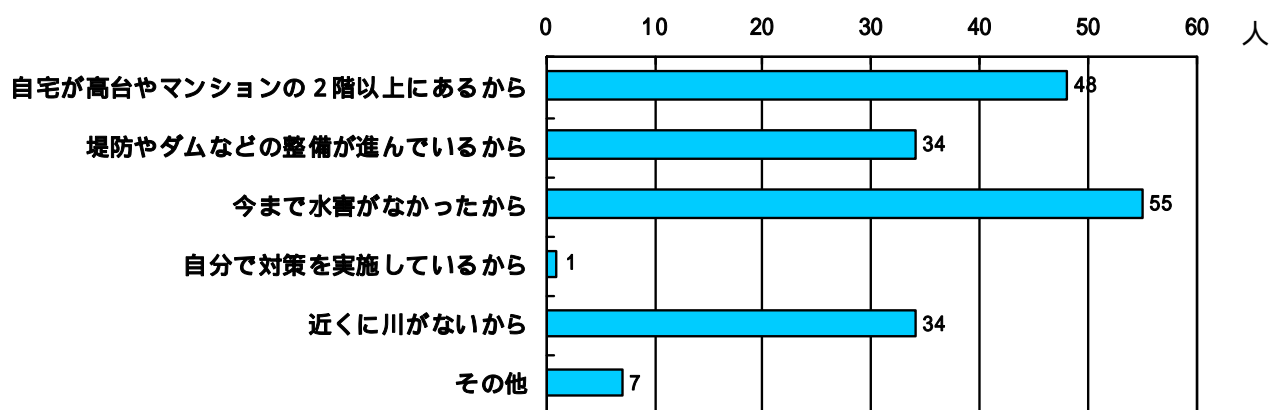
問10 問9で「1. そう思う」または「2. 少しそう思う」と回答された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 河川の近くに住んでいるから	15	60.0
2. 堤防などの川の整備が進んでいないから	3	12.0
3. 上流で開発が進み、以前と状況が変わったから	2	8.0
4. 家が低い土地に建っているから	4	16.0
5. 過去に水害のあった土地だから	7	28.0
6. 昔、田や沼であった所に家が建っているから	9	36.0
7. 地球温暖化で集中豪雨が増えているから	11	44.0
8. その他	2	8.0



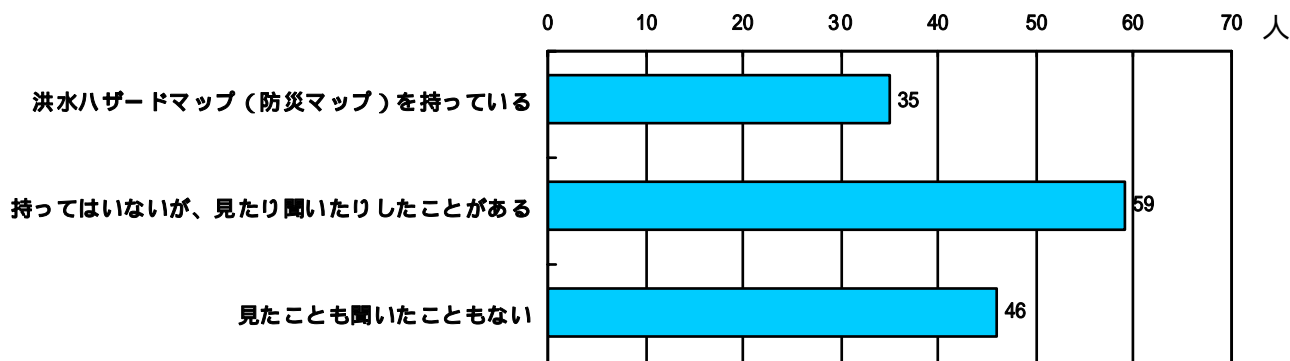
問11 問9で「3.あまり思わない」または「4.思わない」と回答された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅が高台やマンションの2階以上にあるから	48	41.7
2. 堤防やダムなどの整備が進んでいるから	34	29.6
3. 今まで水害がなかったから	55	47.8
4. 自分で対策を実施しているから	1	0.9
5. 近くに川がないから	34	29.6
6. その他	7	6.1



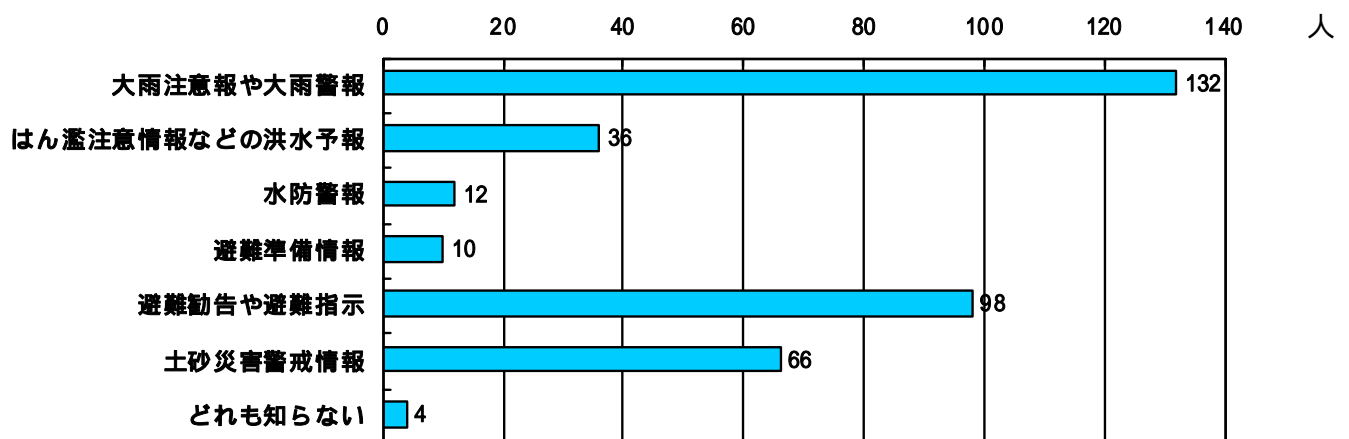
問12 浸水が予想される区域を示すものとして、「洪水ハザードマップ(防災マップ)」がありますが、あなたはこれを見たり、聞いたりしたことはありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている	35	25.0
2. 持ってはいないが、見たり聞いたりしたことがある	59	42.1
3. 見たことも聞いたこともない	46	32.9
合計	140	100



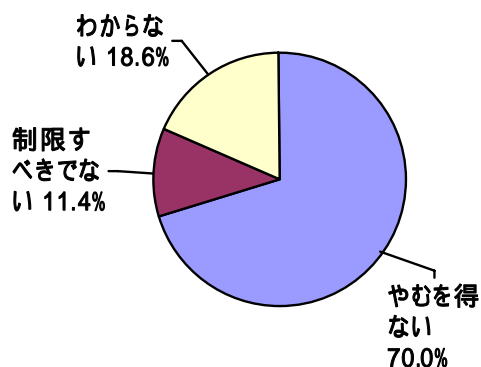
問13 水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出る情報のうち、あなたが知っているものはどれですか。(はいいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1.大雨注意報や大雨警報	132	94.3
2.はん濫注意情報(洪水注意報)などの洪水予報	36	25.7
3.水防警報	12	8.6
4.避難準備情報	10	7.1
5.避難勧告や避難指示	98	70.0
6.土砂災害警戒情報	66	47.1
7.どれも知らない	4	2.9



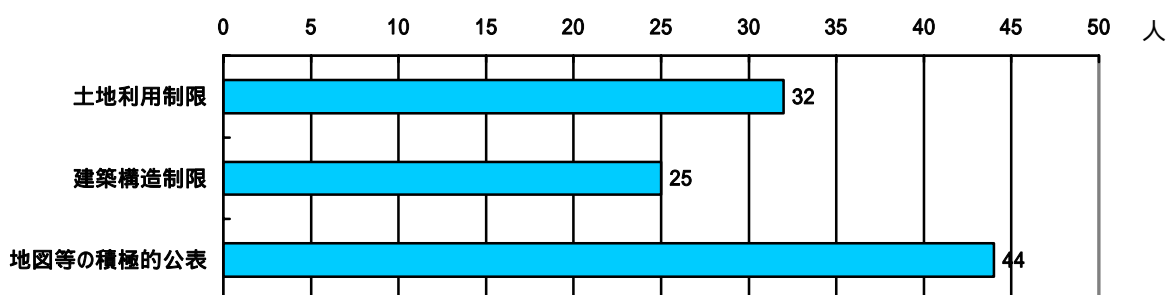
問14 水害による被害をできるだけ少なくする方法として、の低地に建物を建設しないよう制限することが考えられますが、あなたはこのような土地の利用制限についてどう思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1.被害を少なくするための制限なら、やむを得ない	98	70.0
2.制限はすべきでない	16	11.4
3.わからない	26	18.6
合計	140	100



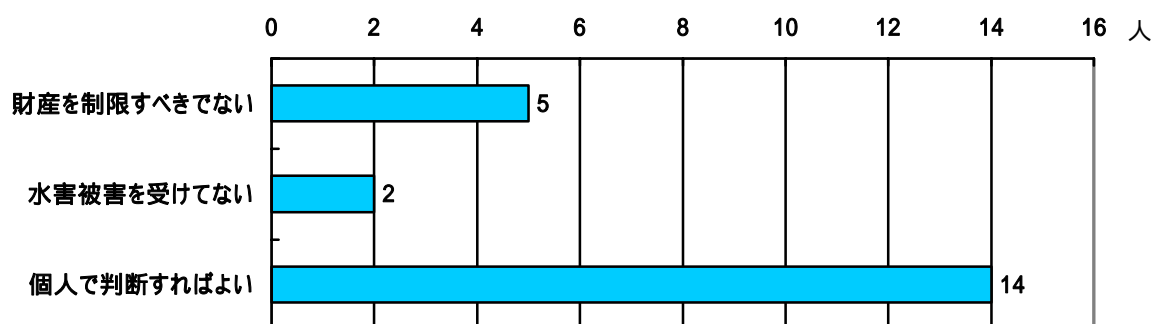
問15 問14で「1. やむを得ない」と回答された方にお聞きします。
 土地利用制限を強めるためにはどうしたらよいと思いますか。
 この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 水害の危険性に応じて土地利用を制限し、浸水の危険性が高い場所には住まないような制度を作る	32	31.7
2. 水害の危険性に応じて建築の構造を制限し、万一浸水したとしても被害が少なくなるような制度を作る	25	24.7
3. 水害の危険性が高い場所を示す地図などを積極的に公表することにより、危険性が高い場所に住まないよう土地利用を誘導する	44	43.6
合計	101	100



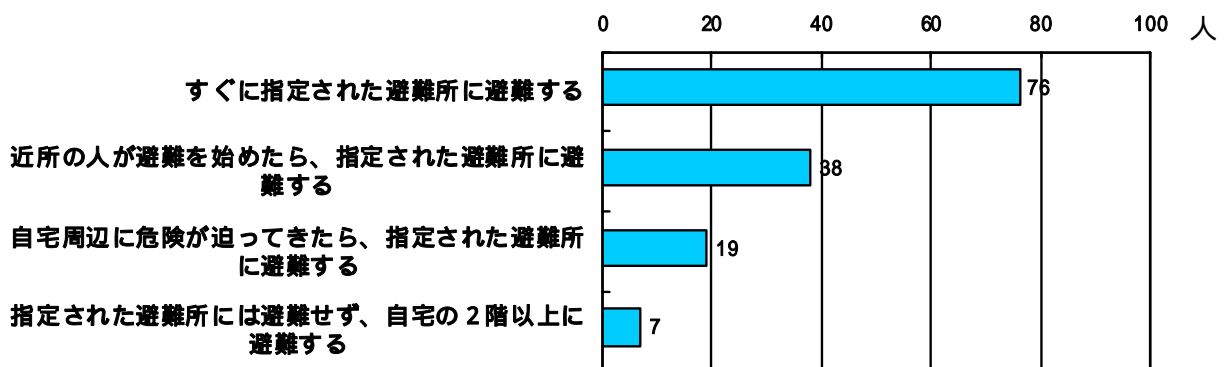
問16 問14で「2. 制限はすべきでない」と回答された方にお聞きします。
 そのように思われる理由は何ですか。
 この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 個人の財産を制限すべきでないから	5	23.8
2. 近年水害被害を受けていないから	2	9.5
3. 水害の危険性を公表し、住むかどうかは個人で判断すればよいから	14	66.7
合計	21	100



問17 水害や土砂災害の危険性が高くなり、市町から避難勧告が出された場合、あなたはどのような行動をとると思われますか。
この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. すぐに指定された避難所に避難する	76	54.3
2. 近所の人が始めたなら、指定された避難所に避難する	38	27.1
3. 自宅の周辺に危険が迫ってきたら、指定された避難所に避難する	19	13.6
4. 指定された避難所には避難せず、自宅の2階以上に避難する	7	5.0
合計	140	100

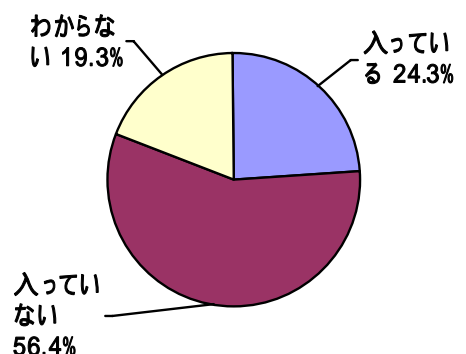


指定された避難所には避難せず、自宅の2階以上に避難する理由

- ・マンションの4階に住んでいるので大丈夫。
- ・避難所に向かう間の危険性が高いのでむやみに避難しない方がよい。
- ・琵琶湖岸周辺に住んでいるため、近くに高い土地がなく、避難所も自宅と高さが変わらないため。
- ・指定されている避難所では、収容人数が不足しているなど、災害時の避難所として機能しないと思われるから。
- ・障害者が家族にいるため、大勢の人が集まる避難所では生活できないから。

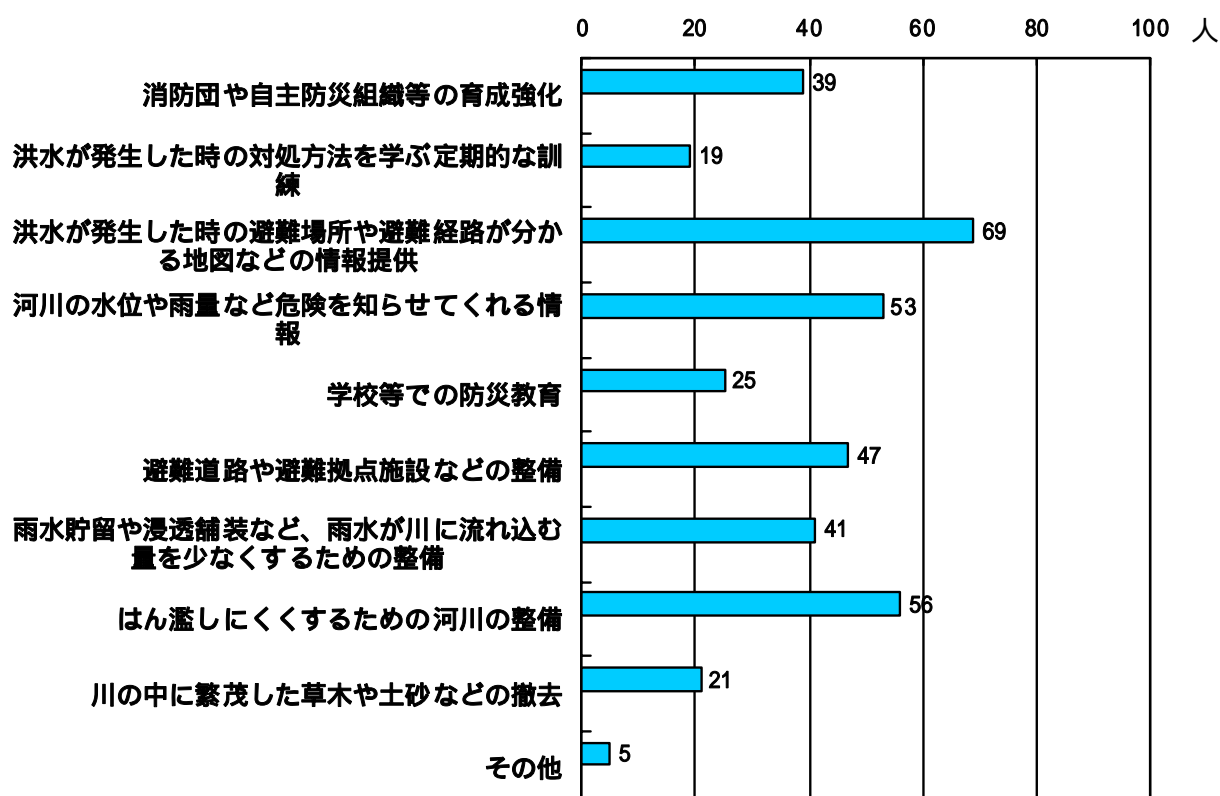
問18 あなたは水害や土砂災害に備えた保険（住宅総合保険等）に入られていますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 入っている	34	24.3
2. 入っていない	79	56.4
3. わからない	27	19.3
合計	140	100



問19 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望まれますか。
重視して進めるべきと考えるものを選んでください。(は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	39	27.9
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	19	13.6
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	69	49.3
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	53	37.9
5. 学校等での防災教育	25	17.9
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	47	33.6
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	41	29.3
8. はん濫しにくくするための河川の整備	56	40.0
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	21	15.0
10. その他	5	3.6



問20 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思われますか。あなたの自由な意見をお書きください。

(主だった意見)

【個人で留意すること】

- ・車で知らない土地を移動中に遭遇する水害のために窓を割る工具を携行している。
- ・一人ひとりが自らの生命、財産を守れるような備品の設置が必要。
- ・家族で避難所や災害時に携帯するリュックの中身の確認をしておく。
- ・個々が水害に対して危機意識を持ち、自分の身は自分で守る気持ちが大事。
- ・河川の平常時の状況を知っておき、洪水時に適切な判断ができるようになることが必要。
- ・洪水時にはん濫する可能性のある用水路などを平常時から確認しておくことが必要。
- ・平常時からハザードマップを見て避難所等について確認しておくこと。
- ・情報を集めて、早めに避難すれば被害は少ない。
- ・河川の過去のはん濫や水害状況を知ること。

【地域で留意すること】

- ・防災訓練などの取り組みが必要。
- ・水害の可能性のある場所の認知を高める(看板・広報等)。
- ・学校や地域での水害に関する情報共有。
- ・助け合える町づくりを自主的に考える。
- ・地域の防災・避難訓練を実施し、ハザードマップを活用して地域の特性を共有し、避難所や避難経路等を確認することが大切。
- ・住民すべてが、避難所や避難経路を理解する取り組みが必要。
- ・定期的な川の草木の伐採などの維持管理が必要。
- ・一人住まいの高齢者の方など災害時要援護者に対する対応を検討しておく。そのためには、地域住民間のコミュニケーションが必要。
- ・近所や自治会で助け合い、協力し合う関係づくり(イベント・訓練等)が大切。
- ・地域の水害特性を最も理解しているのは、地域住民であり、自分たちの身は自分たちでまもる意識が大切。
- ・自主防災組織の設立や定期的な訓練等の実施が必要。
- ・自治会内で携帯連絡網を持っておきたい。
- ・講習会・実践講座を積極的に行い、回数を重ね減災対策を周知徹底したい。
- ・避難に関するルールづくり、マニュアル作成が必要。